

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490700115		
法人名	社会福祉法人 慈徳会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	三重県松阪市下蛸路町376番地1		
自己評価作成日	平成29年12月21日	評価結果市町提出日	平成30年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JivogyoCd=2490700115-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30 年 1 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

締め切った事業所ではなく、開放感がある事業所。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

松阪市の中心部から国道42号線を車で西方に向かい、多気町の手前に事業所が立地し、交通の利便性が高く、毎日面会に訪れる家族がいる。敷地内には事業所の他に同一法人が経営する特養ホームと短期入所施設、デイサービスセンター等が建ち、中央の駐車場では30年以上前から地域自治会と事業所が共同で夏祭りを開催し、住民の交流機会を設け地域に根付いた活動が現在も引き継がれている。さくら園の名称に由来して、桜の木立に囲まれて自然豊かな環境にマッチした温かみがある木造の建物で、中央に玄関を配し東西に2ユニットの事業所では、「家庭のような温かさを大切に」と、理念の実践に全職員が日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念とグループホーム独自の理念を目につきやすい所に掲げ、常に意識出来るようにしている。	4年前に管理者と全職員が話し合って、グループホームにふさわしい独自の理念を決め、「家庭のような温かさを大切に」とし、玄関等に掲示したり、会議の際に確認し合って職員に周知を図り日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は行っていない。防災訓練や夏祭りを法人と地域が協同して行い、そこに参加している。	事業所周辺の住民が、自宅で収穫した白菜や大根、サツマイモ等の野菜を届けて下さるので調理に活かしたり、花壇に花の苗を植えて下さるので職員と利用者が育てて楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に実施していない。運営推進会議にて自治会代表の参加者に対しては事業所内の支援の方法等は報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回個別ケアの状況と事業所報告を行っている。参加者には質疑応答を行い、意見は取り入れるようにしている。	年6回開会し、毎回自治会役員や民生委員、家族代表者、市・包括職員、協力医等多数の参加を得ている。市より事業所で認知症カフェを開催することを提案されているため、先進地を見学し運営推進会議で報告したが、単独ですか、どこかと共同ですか等開催方法を検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入所者状況や運営推進会議にて事業所報告等を行っている。	松阪市介護高齢課主催の「サービス連絡協議会・グループホーム部会」が2ヶ月毎に開会され、管理者が出席し、昨年は会長を務めた。市内にある15事業所が共同し、ワークセンター祭で認知症啓発活動等に取組んだり、認知症カフェ先進地見学を行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修に参加し、身体拘束について学んでいる。玄関の施錠も行わないよう心掛けている。	法人が作成したマニュアルを内部の全事業所が共有し、各現場で取り組んでいる。事業所に対応策を検討した上で緊急止むを得ない場合は、家族に説明し同意を得た上で何らかの身体拘束を実施するが、現在実施している利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修に参加し、虐待について学んでいる。自分たちが行う行為が虐待にあっていないかお互いに確認しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修に参加し、権利擁護について学んでいる。実際に活用できるようにまで支援しきれていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は直接説明を行なう。その都度、疑問点等を確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット内に意見箱を設置している。引継ぎに利用者、家族からの要望欄を作り職員が把握できるようにしている。	過去に結成された家族会があり、代表者が運営推進会議に出席しているが、家族会の活動が停滞しているため、管理者は話し合う機会を持ちたいと思っている。毎月家族向けに発行していた便りも休刊しているため復活し、便りを通じて家族からの意見等が聴けるようにしたいと思っている。	グループホームさくら通信「だんらん」が、発行休止状態であるため、発行を復活するために管理者は職員と話し合っって役割分担をする等の方策を検討して、通信が事業所と利用者や家族を繋ぐ架け橋となる取り組みを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に機会を設けてはいないが、管理者へ意見を言いやすいような職場を心掛けている。	ユニット会議等の機会に職員は意見や要望を述べたり、日常的に様々な機会を通じて管理者に意見が述べやすいようにように配慮している。ケアや行事や環境整備等に関する意見等が多く、実践に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一回の運営定例会により事業所の状況を共有している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加やOJTを実施し、介護技術、知識の向上が図れるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二か月に一回開催されるグループホーム部会へ参加し、情報交換を行っている。また、事業所見学を年に一回実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問し事前調査を行い、職員と共有する。入所初期は関わりを多く持ち、関係づくりに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に訪問し、事前調査を行なう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が安心して生活できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まだまだ、介護しているという気持ちが強く、共に暮らしているという関係性が築けていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の多いご家族とは情報交換が行われているが、まだまだ家族との交流は少ない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご家族等の面会があれば対応しているが、意欲的に交流している事が少ない。	家族や職場の同僚や近所の人等の面会者があれば、職員は歓迎し、利用者と十分に交流できるように支援している。行きつけの理髪店で散髪を希望している利用者の外出支援をし、関係継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	9名という少人数の為、ご利用者様同士は家事やレクリエーションを通して関係が築けるよう職員が間に入って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば、退所後の相談にも対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時等にどのように暮らしていきたいか確認しているが、なかなか意向に沿えない事もある。	日常的に利用者がリラックスしてくつろいでいる機会に、職員が傍に寄り添い会話を通じて本人の思いや意向を把握したり、家族から情報を得たら、引き継ぎ帳に記入して全職員への共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	余暇時間などの会話から生活歴を垣間見れる事もある。個別カルテに記入し、確認する事でその方を共有理解できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の日々の変化等を引き継ぎ帳や介護記録に記載し、職員間での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族のご面会時には日常のご様子やご家族の意向等を共有出来るよう努めている。しかし、ご面会の少ないご家族も見える為、月に一回は書面にてご様子をお知らせしている。	初回面接の際に、管理者が収集したアセスメント情報に基づいて、ケアマネジャー又は計画作成者が介護計画を作成する。家族の同意を得て確定した計画を元に、担当者が毎月モニタリングを実施し、6か月毎に計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録をしっかりと記載し、情報共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけご利用者やご家族のご希望に添えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩などを通してグループホームのご利用者の事を知って頂き、声を掛けて下さる方もみえます。地域と溶け込み安心して生活出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所としての協力医はいるが、入所前から掛かっている医師への受診を希望される場合は受診援助も行っている。	大半の利用者は事業所の協力医を主治医とし、定期的に通院又は往診にて受診している。従前のかかりつけ医の受診を継続している利用者の通院は、家族同伴で管理者が移送支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師は不在であるが、往診時や通院時には同行し、情報提供を行っている。また、緊急時には特別養護老人ホームの看護師に協力して頂く。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された病棟への情報提供や医療相談室との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約時に事業所のできる終末期の対応について伝えている。また、医師からターミナル宣告された時点で家族から同意書を取っている。	入居時に重度化や終末期の対応について家族の意向を伺い、他施設等への転所を望む場合は、入所申込等の支援を提供している。終末期も事業所と望む場合は、系列施設の看護師の協力を得て看取りケアを提供している。その際に家族の希望で主治医を在宅医に変更する支援も行い、職員は看取りに関する学習も心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修に参加して、緊急対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域協同防災訓練や夜間想定避難訓練を実施しており、法人として地域と協力体制を取っている。	地域自治体と共同防災訓練や夜間想定避難訓練の他、新任職員を対象に防災講習会を開会し、全職員が防災に対応出来るように訓練している。また事業所は災害時に地域の避難所として指定を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を受け、ご利用者様の尊厳を守るよう努めている。しかし、時々馴れ馴れしい言葉遣いや、命令口調になっている事が見られる。	法人全体で「接遇推進委員会」を設立し、職員研修会を開き、学習したことを各現場で実践している。毎日面会に訪れている家族があり、プライバシーを尊重して居室で個別に面会出来るように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が意思決定出来るような声掛けをし、尊重出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合った一日を過ごして頂けるよう努めているが、食事などは決められた時間提供になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気温等に配慮しながら、入浴前日に衣類を選んで頂き、その人らしさを大切に支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特別養護老人ホームの調理で作って頂いている。盛り付け準備や後片付けは手伝って頂くように努めている。	日常の食事は、系列の特養ホームで調理した物を届けてもらい事業所で配膳している。利用者の希望で回転寿司へ外食に出かけたり、家族からホットケーキの材料の差し入れを受けて、皆で作って楽しく頂いたこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重にあった一日の目標水分量や食事摂取量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。歯科への受診も推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を行っている。介助が必要な方には声掛けや誘導を行う事で排泄の失敗が少なくなっている。	半数の居室にトイレが設置され、その他は居室の出入り口付近の解り易い位置にトイレがあるため、利用者は気兼ねなく排泄が出来、職員は個別の排泄介助が提供しやすい。便秘対策にオリゴ糖とオリーブオイルを服用し排便を促す取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動量を増やし、緩下剤に頼らない排泄を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴日を設けている。マンツーマン入浴が実施出来ている。	隔日が入浴日を設け、現在は入浴を拒んだり、順番に不服を告げる利用者はいないが、入浴を誘う言葉がけに気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休んで頂く事を前提としているが、1人では淋しいと訴えられる方には居間で休んで頂くなど臨機応変に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬による副作用など日々観察し、薬剤師や主治医での報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや洗濯たたみ、食器洗いなどご利用者様の習慣や出来る事を見極め、役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や外食など外出出来る機会を提供している。	天気が良い日には、各ユニットのホールからウッドデッキに自由に出て外気浴をしている。事業所の周辺を散歩したり、花壇の花を観て季節の変化を感じることが出来る。春には庭で桜の花見を楽しみ、また丹生太師までドライブに行き楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金として金庫内で管理している。買い物など必要に応じて使って頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を自由に使って頂いている。携帯電話の持ち込みも禁止していない。手紙などの投函は職員が外出した際に行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間が玄関に近い為、室内温度の調整に苦慮している。なかなか、季節感を取り入れる工夫が出来ない。	自然豊かな環境にマッチした木造でゆったりした建物で、玄関の左右に各ユニットのウッドデッキがあり、ホールに通じている。ホールは高い木の梁をめぐらした天井と窓が大きく明るい。昼食後皆でテレビの前のソファに腰掛けてくつろいでいる。和のユニットには畳スペースがあり、利用者が洗濯物をたたみ家庭的な雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂でのテーブルや椅子の配置、居間のソファの配置を会話が弾むように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は殺風景になっており生活感が感じにくい。居間で皆様で観られているという事もあるが、居室にテレビを置かれている方も活用されてみえない。	居室には、クローゼットとベッド、洗面台、トイレが設置されていて、利用者が自宅から持ち込んだ馴染みの机や椅子等が調和し、家族写真や孫の習字の作品が飾られて家庭生活の継続と居心地の良さを感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を付け、ご自分の部屋だと理解して頂くようにしている。共有スペースとの違いも分かり易い。		